碩心

題字は松井岳洋筆

No.368
平成16年11月

発行
(社)日本詩吟学院岳風会 認可
神奈川　碩心会

発行者　加藤岳洵
編集者　磯村岳朋

神奈川県葉山町堀内206
Tel/Fax.046-875-3723

いつも初心に

企画部長　田中岳明

私が詩吟を始めた動機は義兄が他流派で詩吟をやっていた事によります。親戚の集まりでは、必ず義兄が一吟し、皆から拍手を受け得意気でした。義兄は自分の吟が終ってから後について来る様に私に命じ、吟じさせられました。やっとのおもいで一吟終ると、次に四歳くらいの孫が吟ずるのですが、漢詩など読み書きも出来ないのに節調や余韻が巧みで、子供には負けられないとの思いで、吟を習う事にし、親戚の集まりがある度に恥を忍んで未熟な詩吟を吟じ始めたのがきっかけでした。しかし基礎の無い私はなかなか上達できず、さりとて二時間以上もかかる義兄の家には通う事が出来ず、近所に詩吟をやっている人はいないか聞き込みをしました。すると私の子供の親友の父親が週一回吟の練習に行っているのが判り、早速紹介をしてもらい、当時、碩心会逗葉建設支部に見学と言う事で連れて行って貰いました。教場の先生から、せっかく来たのだから一吟するようにと言われ、始めましたが、終る頃には汗が止めどなく流れたのを覚えています。当時先生から言われた《大きな口を開けて(腹式呼吸で)大きな声を出す。各余韻の略譜等の基本を身に付ける。わからない事は聞く。》等々を思い出しては【いつも初心に】と自分に言い聞かせております。逗葉建設支部から逗子A支部に移籍し、《詩文を理解するまで読み、更に繰り返し書き、詩の心をつかむ。アクセントに気をつけて吟ずる。声に抑揚を付ける。人からの注意を素直に聞く耳を持つ。》と言う初心者としての気持ちの下に再出発しました。しかし実行は大変困難で失敗の繰り返しですが、くよくよせず、失敗は成功の糧と心得て更に次の台詞を教訓に稽古に励んでいます。

勝ったらあかん　負けなはれ　一歩さがって
譲るのが円満のこつ　何時も感謝を忘れずに
わが子に孫に世間様　どなたからでも慕われる　ええ年寄りになりなはれ　ボケたらあかん　その為に　頭の洗濯生き甲斐に　何か一つの趣味持って　せいぜい長生きしなはれや

行事予定

○さよなら図書館ホール
日　時・12月5日(日)　13時30分開会
場　所・図書館ホール

○指導者講習会 ― 納会 ―
日　時・12月20日(月)　5時30分受付
会　費・2000円

○碩心会初吟会
日　時・平成17年1月10日(祝)9時30分受付
場　所・鎌倉　わかみや
会　費・4000円

○碩心会春季審査会
日　時・3月19日(土)　9時受付
場　所・葉山町福祉文化会館 ― 大会議室 ―

昇伝認許 (平成16年10月1日付)

(少年　2名)
420 広瀬直樹　366 広瀬優作

(初段　10名)
432 岸科洋子　431 田中吉江　429 松田淳子
428 小糸よし　426 渡辺恵美子　424 乗松　力
423 高松利男　422 田邊隆治　421 村上知久
419 寺村多ゑ

(二段　3名)
416 岩田和義　413 吉田千代江　409 加藤二良

（初伝　5名）

407 大塚　洋　406 田中秀喜　405 齋藤健二

403 酒井芳徳　402 今井重夫

（三段　7名）

397 鮎澤紀泉　396 坂上醴泉　395 池田詩泉

394 中村欣泉　393 種田麗泉　391 菊地捷泉

390 志田廣泉

（四段　9名）

389 高橋陽泉　388 大池信泉　386 山口莉泉

385 佐藤節泉　384 星野清泉　383 野口聖泉

382 野口和泉　380 行谷喜泉　376 後藤和泉

（中伝　3名）

367 松木宗泉　357 根岸柚泉　345 佐久本利泉

（五段　4名）

341 山口重山　337 斉藤紫山　335 島　光山

334 由谷悦山

（六段　1名）

377 今井俊山

（奥伝　2名）

302 中尾松山　301 上野花山

（七段　5名）

280 北原芳風　279 寺岡榮風　278 山之口浩風

269 米山廣風　264 斉須淳風

（八段　6名）

252 浅野健風　251 大内萃風　249 山田量風

248 森合嘯風　247 鈴木清風　236 堤　寿風

平成16年秋季審査会を終えて

東伏見　北原芳風

平成16年秋季審査会は9月19日(日)に逗子図書館ホールで行われました。

冒頭、松井岳篁先生から〝日頃の練習を審査の方に聞いていただくという気持ちでやるように〟との開会挨拶があり、次に加藤岳洵先生から〝教室で学んだ普段の稽古の姿を聴かせていただきたい。詩吟は生涯教育の一環として詩吟を通じて日常生活を豊かにし、地域社会での色々の活動に於いて知識を深め、これから豊かな人生を送りたいという目的に叶うものである。また、一生懸命やれば脳が活性化され若返る〟との訓話がありました。

私は松井・加藤両先生の言葉を胸にしっかり受け止め心を込めて一生懸命吟じました。

今回の審査を終えて自分の吟歴を振り返ってみますと、最初始めた頃は蚊の泣くような声しかでなかったこと、二句三息が中々出来なかったこと等を想い出します。教場の吟友に支えられ、呑み会、吟行、カラオケ会等支部行事を楽しみながら今日まで続けることができました。

これからも作者の気持ちを理解し、その背景に思いを馳せ感情を込めて吟じられるよう精進してまいりたいと思います。

第19回鎌倉市詩吟詩舞連盟大会

真澄　佐藤由岳

早朝より雨が降りしきる10月3日、鎌倉芸術館小ホールに於て、鎌倉市民文化祭参加の表記大会が華々しく開催されました。

伊藤春霖副理事長の開会の辞に続く「富士山」の大合吟、鈴木観岳理事長の挨拶があり会員吟詠が始まりました。幼稚園児・小学生の可愛い吟者から、ベテラン会員まで日頃鍛えた熱のこもった独吟・合吟・詩舞と素晴らしい舞台が今年もくりひろげられました。

プログラムもスムーズに進み、最後に時任童岳副理事長の閉会の辞で無事大会の幕が下ろされました。

先生方の重厚なそして美しい吟詠を数々拝聴し、明日より又吟道の研鑽に邁進することを心に誓った有意義な一日でした。

皆伝会吟の集い

真澄　青木梅岳

秋晴れに恵まれた平成16年10月17日(日)葉山町福祉文化会館に於て、表記の会が開催されました。森晴岳先生の開会のご挨拶、上村岳章先生の先導で、碩心会の詩の大合吟で開始致しました。新皆伝者9名を迎えて会員吟詠に入りました。日頃の研鑽の成果を発揮され、

気迫と緊張感が、ひしひしと伝わって参りました。昼食休憩には、折から葉山ふるさと祭りが賑やかに開催されており、会員も買物や、ひやかしに行きました。午後の部に入り、加藤岳洵会長、松井岳篁副会長のご挨拶が有りました。会長のお話しの中で、皆伝会は、昭和63年から16年も続いており、始まりは、中村岳郵先生からで、目的は親睦を高める意向であったとのことです。詩舞では、華やかに凛とした舞を披露して下さり、ご招待吟は、誠吟会、青嵐会、第二地区長、翔風会の各先生方の吟も拝聴させて頂き、碩心会の諸先生方も自分の自信に満ちた力詠を発表されていらっしゃいました。引きつづき懇親会に入り先程よりの緊張感から解放され、お酒も入ってあちらこちらで親しく談笑する輪もでき、最後に「星影のワルツ」で和気藹々でお開きとなりました。

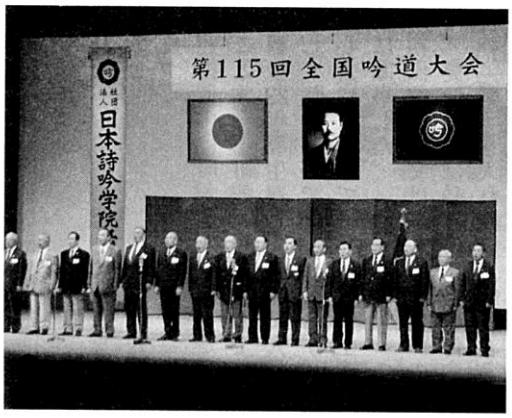
葉山町福祉文化会館大会議室に設営された
仮設舞台で熱演する舞者

第115回全国吟道大会神戸大会に参加して

上村岳章

一日目

大会前日、十月九日は私の還暦の誕生日で、まれに見る台風に見舞われ、どうなる事かと危ぶまれ、大会当日、台風の影響で集合時間に遅れる方も出ましたが無事全員定刻に品川を出発、神戸に着いたのが九時五十分、すでに大会は始まっておりました。



神奈川県本部男性合吟「神州」

男性は全員新神戸駅からタクシーで会場まで、女性は後からバスで会場へ、無事出番までには余裕を持って間に合いました。男性は29番、鹿嶋本部長の先導で一斉に「神州」を思いっきり吟じ、女性は59番、前副本部長渡辺先生の先導で自訟を素晴らしい吟声で合吟。

席へ着いたら、前の方には姉妹会の寒河江吟友会の会長卯月先生始め皆さんの姿も見え、挨拶をさせていただき旧交を温めました。

大会も無事終了一路有馬温泉へ。

夕食宴会は、例によって楽しいひと時を過ごし、温泉につかり早めに床に就きました。

二日目

松井岳篁

昨夜の宴会疲れも見せず宿泊地有馬温泉を出発、バス車内は修学旅行の生徒の様にオバさん達で賑やかだ、間もなく瀬戸内海三大大橋の一つ明石海峡大橋を渡る。平成十年に約十年の歳月を経て完成、全長三九一一米、主塔の高さ約三百米で中央支間長一九九一米は、イギリスのバンバー橋の一四一〇米を上回り、ギネスブックの認定を受けた世界最長で世界一高い吊り橋とのこと。ただ吊り橋は遠くから眺めた方が美しいと思った。途中北淡町震災記念公園を見学、阪神淡路大震災の凄さを知った、この震災を、教訓として後世に受継ぐ為に建設させたテーマパークで震源となった野島断層や断層が真下を走った民家のキッチン、「震災をモニュメント」として横転したトラックと崩壊した阪神高速道路が生々しく再現されていた。大鳴門大橋を通過、車窓

より太平洋側と瀬戸内海側の風景がすばらしい。宿泊地琴平に到着後長い階段を登り金刀比羅宮参拝、明日の旅の無事を祈って。

第115回全国吟道大会神戸大会
に参加した碩心会・他の皆様

三日目　　白井岳麗

最後まで晴天に恵まれ、先づホットする。8時30分ホテルの人達に見送られて出発。目的地の大歩危（おおぼけ）に着き、早速二隻の遊覧船に分乗し、船頭さんの説明を聞き、次の目的地の桂浜で昼食をとりました。最後の地、竜河洞に着きました。今は洞窟の中も階段があり、説明も道しるべもあり、終戦後おとづれた時とはまるで違っていた。3時に空港で皆さんと別れて、私は松山の故郷へ行きました。

わたしの雅号の由来

悠吟　千葉岳関（信一）

昭和13年4月より20ヶ月海軍航空廠会計部人事課に勤務した。毎昼食時庭で詩吟を指導された。後すぐ入営して敗戦まで陸軍内でも軍歌と共に詩吟の指導があった。戦地で負傷を負って入院中も詩文を入手して慰められた。ソ連抑留中は吟どころではなかった。声を出すことすら不可能、食べ物とて無かった。

戦後22年暮生還し大蔵省に入省した。10年程して詩吟部ができたが入らず、昭和40年に碩心会に入門して松井岳洋先生次いで根岸先生に師事した。

初伝中伝までは本名の「信」の一字をとった。奥伝皆伝は長年の軍との付合いと生還を祝い「剣」を入れ剣風・剣岳と名乗った。

最後の総伝は、戦後一貫して大蔵省関税局及び横浜税関に永年勤務させて頂いたお礼の意味を込めて「関」なる文字を入れた。あまり興味のある雅号ではないが、私にとっては死地から生還して青春期から好きだった吟につけてそれなりに想いを込めたというべきか。

悠吟　松岡杏岳（節子）

信州を旅したときに目にした『杏』の花が忘れ難く雅号にしました。杏酒も大好きです。花も実もある人生なんて格好いいですけれど、とても実践できませんのでせめて雅号に頂戴いたしました。

真澄　菊池祐岳（早苗）

私には三人の子供がいます。息子が一人、娘が二人です。

長男が誕生して命名をする時に主人と考えて、男の子は主人の名前の字を一字入れ、次に生まれた長女には私の名前を一字入れる事にしました。そして三人目の次女には、もうそうゆう事は考えずに私が単純に呼び易い名前をという事で「祐子」と付けました。

それで雅号にその『祐』の字を使っているという事です。

逗子A　高見湘風（巌）

初めての雅号泉のとき、上にどんな字を付けてもよいと云われ、当時の勤務地桜木町から桜を貰い「桜泉」と名乗りました。春爛漫の桜に泉はよくマッチし、職場でも皆さんの厚情を受けたことを懐かしく想い出します。

次は「堂山」としました。逗子の官舎住いから、生涯の定住地を求めて夫婦二人で半年探し歩いてやっと現在の茅ヶ崎の我が家を見つけました。駅は辻堂を利用するので堂を貰いました。堂が山に似合うかどうかは別にして、永住地を定めた感激を想い起こします。

今は「湘風」次が「湘岳」です。居住地の湘南からの命名です。湘はすでに名乗っておられた大先輩もおられ恐れ多い気持もありますが、風岳によく合い雅号として最高です。

生活も健康と家庭と職務に恵まれ、湘南の

そよ風に似た幸せを感じているこの頃です。

真燈　須藤　月泉（敦子）

詩吟を習ううちに少しづつ漢詩に興味を持つようになりました。中でも奔放で力感に溢れる李白の詩に、月窟の水、これは月の中の岩窟中より沸き出ずる水、の一節があり、最初に頂く雅号泉と共通するものがあるように感じました。

人生嬉しいこと、悲しいこと、辛いこと、様々ですが、いつかはお月さまのようにまん丸い満月の日が必ずやってきます。

泉のように枯れることなく満月のように満ち足りた気持でこれからを過ごしたい、そんな願いを込めて雅号に「月」を選びました。

堀内D　石毛　源泉（三郎）

何か一つ自分の得意のものをと思っていた折、昔父が、鞭声粛々、を吟じていたのを思い出し昭和54年葉山に引越して来たのを機に中村先生の門下に入会しました。

昔から音痴のためなかなか上達しないまま初伝になりました。いよいよ雅号を付ける段になり、「三」では語呂が悪いのでいろいろ考えた末、生家の家号を頂くことにしました。生家は旧家で代々「源兵衛」を名乗り、父もこの名を襲名して居ります。

この由緒ある「源」を名乗ることで、更に吟道を研鑽して行く覚悟です。

詩吟詩舞発表会―逗子文化祭

晴誉　高橋　俊風

逗子の紅葉もはじまる好天の11月3日、図書館ホールにて表記大会が開催されました。

9時40分修礼。故嶋崎秀剛先生に黙祷―。最後の図書館ホールに感謝し有意義な大会にしたいと、岡田岳耕先生の開会の辞がありました。

森晴岳先生の先導による「富士山」大合吟と引き続きプログラム通り、書・華・吟・舞など各流派の方々の力演で素晴らしい大会でした。マイクの調子がわるくすみやかな担当者の行動がほしかったです。

閉会の辞は高橋岳禮先生の万感こもごもな熱弁に感動しました。

来年の新設ホールこけら落しを楽しみに何時もの大会とは又違う思いで、家路に向かいました。夢と希望を乗せて頑張りましょう。

解体寸前の慣れ親しんだ
逗子図書館ホール舞台で
熱演する舞者

詩吟詩舞発表会―葉山文化祭

菊薫る11月3日の文化の日、第38回葉山町文化祭参加の行事として今年も葉山詩吟詩舞連盟主催、教育委員会・文化協会共催による発表会が、福祉文化会館ホールで盛大に行われました。

参加者の殆どは吟が碩心会、舞が京愛会会員であり、馴染みのお顔が続々と舞台に登場し終日和やかな雰囲気に包まれました。

吟詠は独吟主体で進行し、皆さん日頃の研鑽結果発表の好機とばかり舞台度胸満点で存分に朗々と吟じられました。

発表会の華、詩舞や構成吟での美しい舞いは舞台を一段と明るくし豪華にしました。

掉尾を飾る役員吟詠はさすがに堂々たる響きで、満場の拍手に惜しまれつつ閉会の辞を迎え今年も幕を閉じました。

滝の坂支部による恒例の構成吟は
「春」をテーマに８題が演じられた

ふれあい講座

10月28日（晴）葉山中学校に於て、第3回目の「ふれあい講座」が開かれました。今年の受講生徒は、1年生10名が出席しました。講師として、まず加藤岳洵会長が、「詩吟」についての講義を行い、「詩吟を知ってる？」の問いかけに無言の生徒、では口の体操「アイウエオアオ・・・」は、小さな声で、先生の後に付いていました。ビデオで詩舞を鑑賞して、講師が松井岳篁先生に変わり、「春暁」を素読し吟じた。10分休憩の後、内山岳青先生が、和歌「ふるさとの山」を一節毎に余韻を付けて生徒に声を出させた。だんだん声も大きく成り、最後の講師立澤岳晴先生の時には、生徒の声が自信に満ちていた。2時間余りで、すごい進歩である。このまま終わってしまうのが残念です。

「吟」紀行

東伏見　大野祥山

10月3日、木村岳風先生の墓前に朗々と響きわたる大合吟は東伏見支部14名による「偶成」。折柄の雨音も先生の遺徳を偲んで額ずく我々を暖かく迎え祝福する交響の如し。

今年は岳風先生の墓所に詣出て偉大なる足跡の一端にも触れようと云う企画で、秋雨烟る中を貸切りバスで一路信濃へと向かった。車中にて吟の研修。又、イチロー選手の大記録樹立と日頃の弛まぬ精進に称賛の声しきり。

岳風記念館では先生の偉業に改めて感銘を深める。特にその書の素晴しさを賞賛す。

銘酒「真澄」本店を経て諏訪大社下社参詣。今春の7年振り御柱祭の豪壮さを想う。

宿は「諏訪湖ホテル」。「片倉館」の千人風呂で疲れを癒し大宴会。続くカラオケ大会も大いに盛り上がる。

翌4日、霧ヶ峰は濃い霧の中に姿を隠した儘。塩山市「恵林寺」の信玄公墓前で「新正口号」を合吟。「心池庭」の景観に心洗われる思い。喉の渇きを勝沼町ぶどう園で癒し、後、快適なドライブに夢現つ。

楽しかりし吟行の余韻を胸に夕刻葉山帰着。

木村岳風記念館での全員写真

会員移動

○**入会**（10月1日付け）

441藤崎（フジサキ）洋子（ヨウコ）　葉山町堀内1159（堀内F）　☎046-875-0333　紹介者　池田清岳

○**入会**（11月1日付け）

442鈴木（スズキ）幸子（サチコ）　葉山町堀内2100-162（東伏見）　☎046-876-1362　再入会（聰風）

443稲葉（イナバ）卓也（タクヤ）　横浜市西区北軽井沢33（幸和B）　☎045-311-0977　再入会（卓泉）　紹介者　渡辺英子

○**退会**（10月1日付け）

430中村妙子（吟　秀）

○**退会**（11月1日付け）

325五十嵐瑠璃子（堀内D）

編集後記

例年なら11月は、紅葉狩り、12月は、クリスマスのシーズンですが、本年は、大きな台風やら中越地震など、災害が次々起こり、手放しで、楽しめません。地震が修まり、被災者の方々が安心して眠れるような日が、早く来ることを祈るばかりです。

◎なお「雅号の由来」原稿を、お待ちしております。

広報部

16年11月現在	会員数
葉山地区	164名
逗子・大船地区	119名
合計	283名